

ご挨拶

第5回日本糖尿病理学療法学会症例報告学術集会
集会長 天川淑宏
(東京医科大学八王子医療センター糖尿病・内分泌・代謝内科)



この度、第5回日本糖尿病理学療法学会症例報告学術集会を2020年3月15日（日）に東京白金の北里大学病院北里研究所で開催させて頂くことになりました。

テーマは、「糖尿病治療における運動、食事、薬物療法の **Interaction** を知り実臨床に活かす」としました。その糖尿病治療の基本は「まず食事療法や運動療法に取り組み、その状況下においても十分な血糖コントロールが得られない場合、薬物療法として内服薬が用いられ、インスリンの分泌の不足や糖尿病型によっては、インスリン治療が用いられます。なお、基本の食事療法と運動療法の継続は、より一層の効果へとつながる」とされています。

この基本である運動療法は、単なるエネルギー消費を目的とすることのみならず骨格筋への刺激による筋由来の内分泌ホルモン（マイオカイン）の働きに運動の新たな捉え方として注目されています。食事の栄養素の摂り方（順序）、メトホルミン、**DPP-4** 阻害薬、**SGLT2** 阻害薬などの薬物とマイオカインの関係は、知らずにはいられない運動療法の要素であるといえます。

このような背景を踏まえ「糖尿病理学療法」の担う役割は、より専門性の高い運動療法の指導力と共に、食事療法、薬物療法との相互作用を介した臨床力を身につけることが重要と考えられます。

本症例報告学術集会は、最新の糖尿病治療をテーマに第一部は専門医および各医療職の視点からの治療を学び糖尿病理学療法（運動療法）との相互作用を知る。第二部では、糖尿病理学療法に取り組んだ症例報告を基に運動、食事、薬物そして患者の心に至る症例の検討とチーム医療への臨床力向上を目指す企画としました。

本集会は、理学療法士の取り組む糖尿病理学療法を医師、看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師の皆様にも知って頂き、症例の **QOL** の向上につながる活発な意見交換を実施していきたいと望んでいます。

2020年は、オリンピックが開催されます。その東京へ一歩早くお越し頂き、ご参加頂くことを運営スタッフ一同お待ちしております。